

# 小学校社会科地域学習にみる態度・行動変容に関する景観論的考察\*

## Cultural landscape study on regional identity development process on the regional study\*

田中尚人\*\*・秋山孝正\*\*\*・山田孝太郎\*\*\*\*

By Naoto TANAKA\*\*・Takamasa AKIYAMA\*\*\*・Kotaro YAMADA\*\*\*\*

### 1. はじめに

本研究では、小学校中学年（第3，4学年）社会科教育において取り組まれている「地域学習」<sup>1)</sup>を通じて、児童が地域に対する愛着を獲得する過程や構造について景観論的な考察を試みた。地域に対する愛着の形成は、公共心の育成、公的資質の獲得についての態度・行動変容であると考え、これに地域に関する景観や土木史が大きく関与していることを論証することを目的とする。

筆者らは既往研究において、岐阜県下9校の小学校を対象として、地域学習教材やカリキュラムに関する実態調査・分析を行った<sup>2)3)</sup>。これに続き、児童の地域学習内容に関する理解をアンケート調査により把握し、地域学習内容と地域性との関係、さらに地域学習前後を比較し教育効果について検証した。

### 2. 地域学習の景観論的意義

#### (1) 景観論における地域性

景観法の制定は、地域における人々の活動や歴史、文化など、その土地の固有性に重きをおいた美の創出、保全に寄与するものであると言われている<sup>4)</sup>。地域の個性は、地勢や気候を基盤として、そこに住まう人々の価値観や暮らしぶりが反映され、地域住民の態度や行動によって形成される。景観とは、人々の身のまわりにある「環境の見え」であり、視覚対象である「景」と、ある時、ある場所において共有される社会的通念の眼差し「観」との間に結ばれた共有イメージである。このため、伝統的な風景、文化や地域に暮らすコミュニティが、児童の景観論的思考に及ぼす影響は大きいと言え、地域の風土に対する理解や態度・行動について、小学校社会科教育における地域学習が重要となる。

\*キーワード：態度・行動変容、景観、土木史、地域学習

\*\*正員、博士（工）熊本大学大学院自然科学研究科 准教授

(naotot@kumamoto-u.ac.jp, TEL: 096-342-3579)

\*\*\*正員 工学博士 岐阜大学工学部社会基盤工学科 教授

\*\*\*\*正員 修士（工）各務原市役所

#### (2) 小学校中学年社会科における地域学習の位置づけ

学習指導要領（文科省）によれば、小学校社会科教育における教科の目標は、「社会生活についての理解」、「国土と歴史の理解」、「国土に対する愛着」、「公民的資質の基礎を養う」の4つが掲げられている。

中学年社会科教育では、これらの目標に対して、

- ①「地域の産業や消費生活の様子、人々の健康な生活や安全を守るための諸活動について理解できるようにし、地域社会の一員としての自覚をもるようにする」、
- ②「地域の地理的環境、人々の生活の変化や地域の発展に尽くした先人の働きについて理解できるようにし、地域社会に対する誇りと愛情を育てるようにする」、
- ③「地域における社会的事象を観察、調査し、地図や各種の具体的資料を効果的に活用し、調べたことを表現するとともに、地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力を育てるようにする」、の3つの具体的な目標に落とし込まれている。

ここで「地域」とは、第3学年では主に児童が生活している市町村区域を指し、第4学年では県レベルまで地域が拡大する。このように地域について学ぶ「地域学習」を中心とした学習内容を表-1に整理した。

表-1 小学校中学年社会科教育の学習内容

学習内容項目	対象地域	学習対象	学習内容
(1)地域の様子	市(区、町、村)	地形 土地利用 公共施設 交通	地理的特徴 土地利用の様子 公共施設の役割 交通の様子
(2)地域の仕事	市(区、町、村)	第一次産業 第二次産業 第三次産業	自然条件との関係 自然条件との関係 仕事の特色や工夫
(3)地域の生活	市(区、町、村)	水道事業 電気事業 ガス事業 廃棄物処理事業	生活や産業との関係 事業の必要性 事業計画や協力
(4)地域の安全	市(区、町、村)	火災 風水害 地震 交通事故 盗難	緊急に対処する体制
(5)地域の発展	市(区、町、村) *例外あり	昔の暮らしにかかわる道具 文化財 年中行事 地域開発事業	昔の暮らしの様子 地域資源 人びとの願い 生活の変化
(6)地域の特色	県(都、道、府)	地理的位置 交通 特色ある地形 特色ある産業	主な都市の位置 交通網の様子 生活の様子 産業の様子

#### (3) 地域学習内容項目に関する景観論的分析

6つの地域学習内容項目について、a) 地域社会の理解、b) 地域性の理解、の2面から景観論的に分析した。

a) 地域社会の理解：コミュニティとともに生活することや社会システムの理解には、主に(1)(2)(3)(4)の項目の学習が寄与し、これが「地域の一員としての自覚」という態度・行動の涵養に結びつく。

b) 地域性の理解：自らが住まう地域の物理的環境や社会環境の特性の理解には、主に(1)(4)(5)(6)の項目の学習が寄与し、これが「地域に対する誇りと愛情」という態度・行動の涵養に結びつく。

このような理解のために、(1)地域の様子、(6)地域の特色を、視覚的に捉え地域固有の景観であることを理解し、(4)地域の安全において、地域が経験した災害の爪痕やそれに対する備えの風景、(5)地域の発展において、人々の暮らしを支えてきたインフラストラクチャーとともにある風景を体験することが、極めて重要である。

また、同様に(3)(4)(5)の項目で触れられる、インフラストラクチャーと地域との関係、連綿と続く歴史を学ぶことは、地域理解には必須である。

### 3. 地域学習効果に関するアンケート調査

#### (1) アンケートの実施概要

各小学校において実践されている地域学習の特徴と児童の理解の関係を分析するために、表-2 に示した岐阜県下9校の小学校第4学年の児童を対象に地域学習に関するアンケート調査を地域学習の事前、事後の各校2回実施<sup>5)</sup>した。小学校は、長良川流域の下流：4校、中流：3校、上流：2校を選定した。アンケートはA3用紙表裏に印刷され、10分程度で児童が回答できるように小学校教諭のアドバイスに基づいて作成されている。

表-2 アンケート実施状況

小学校名	分類	人数	組数	事前アンケート	事後アンケート
1 大垣市立荒崎	下流域	71	2	2005.9.6	70 2005.12.12
2 大垣市立東	下流域	108	3	2005.8.31	106 2005.12.12
3 海津市高須	下流域	70	2	2005.9.8	63 2005.12.12
4 羽島市立桑原	下流域	35	1	2005.9.7	34 2005.12.12
5 岐阜市立加納	中流域	77	2	2005.9.9	60 2005.12.12
6 岐阜市立長良西	中流域	43	1	2005.9.9	40 2005.12.12
7 岐大附属	中流域	122	3	2005.9.12	116 2005.12.12
8 郡上市立相生	上流域	17	1	2005.10.4	17 2005.12.12
9 郡上市立八幡	上流域	67	2	2005.9.12	63 2005.12.12

地域学習に関するアンケート調査の項目	
A. 輪中地域について	
問1.	輪中堤を知っていますか
問2.	水屋を知っていますか
問3.	薩摩義士を知っていますか
B. あなたの住んでいる地域の「川と洪水」について	
問4.	川が洪水になったらあなたはどのようにしますか
問5.	水防団（地域によっては消防団）について知っていますか
問6.	堤防の一番大切な役割は何だと思えますか
C. 地域を知る	
問7.	地域の人が協力することの中で一番大切だと思うことは何ですか
問8.	昔、あなたの住んでいる地域で起こった大きな災害は何ですか
問9.	岐阜県にある大きな川の名前を3つ書いて下さい
D. 地域を好きになる	
問10-(1).	あなたの身近な地域で、有名な場所や自慢できる場所はありますか
問10-(2).	そこはどこですか
問11-(1).	あなたは大きくなったらどこに住みたいですか
問11-(2).	それはなぜですか
問12-(1).	あなたは自分が住んでいる地域が好きですか
問12-(2).	その理由はなぜですか

図-1 アンケート調査項目

#### (2) アンケートの設計意図

アンケートは、岐阜県下の小学校第4学年の児童が2学期に共通して学習する内容である「(6)地域の特色」における小单元「低地の暮らし」に着目して作成し、図-1 に示した通り12問からなる。設問の狙いは以下の通りである。

##### A. 輪中地域について：

輪中堤（写真-1）、水屋（写真-2、写真-3）、薩摩義士の単語は岐阜県内の小学校が必ず行う木曾三川公園の見学で見聞きする事象であり、その情報把握を問う。

##### B. 河川と洪水について：

学習対象である輪中地域と関わりの深い水害に関する理解を問う。水害時の避難行動、水防団の意義、堤防（写真-4）の機能についての知識を測る。

##### C. 身近な地域の理解について：

輪中という特殊な地理的特徴や災害対策、地域コミュニティ活動、経済活動について学んだ児童が、自分たちの住む身近な地域における事象についてどのように認識しているかを知るために、地域協力、災害、河川についての認識を問う。

##### D. 地域への愛着について：

児童の地域に対する愛着の持ち方を知るために、各問に対して小問を2つ設け、記述方式とした。

問10「地域の特色」については、小問(1)で自分の住む身近な地域で有名な場所や自慢できる場所について尋ね、小問(2)では、具体的な場所を回答してもらった。

問11「理想の地域」については、小問(1)で将来住みたい場所について記述してもらい、小問(2)では、(1)の回答理由を、①安全性、②利便性、③自然の豊かさ、④その他の理由、から選ぶ4択とした。問12「地域への愛着」については、小問(1)で、自分が住んでいる地域が好きかどうかを3択で尋ね、小問(2)では、(1)の回答理由を記述式で回答してもらった。



写真-1 輪中堤



写真-2 水屋



写真-3 水屋の内部



写真-4 堤防（長良川）

表-3 事前／事後の地域学習に関するアンケート集計結果

小学校名	1		2		3		4		5		6		7		8		9		
	荒	大	東	高	桑	加	長	岐	相	八	前	後	前	後	前	後	前	後	
	大	垣	大	海	羽	岐	岐	大	郡	郡	前	後	前	後	前	後	前	後	
校	崎	垣	垣	須	原	納	良	大	生	上	前	後	前	後	前	後	前	後	
名	市	市	市	津	市	市	西	附	市	市	前	後	前	後	前	後	前	後	
	立	立	立	市	立	立	市	属	立	立	前	後	前	後	前	後	前	後	
事前／後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	
実施人数	70	70	106	103	63	66	34	34	60	60	40	38	116	117	15	16	63	61	
問1 輪中	1: 知らない	87%	7%	86%	12%	65%	42%	79%	41%	97%	2%	78%	18%	52%	8%	93%	0%	94%	23%
	2: 見たことはある	11%	16%	12%	28%	29%	39%	18%	29%	3%	23%	18%	26%	12%	22%	7%	13%	6%	49%
	3: 役割が分かる	0%	77%	1%	59%	3%	18%	0%	29%	0%	75%	5%	55%	34%	70%	0%	88%	0%	28%
	m: 無記入	1%	0%	1%	1%	3%	0%	3%	0%	0%	0%	0%	0%	2%	0%	0%	0%	0%	0%
問2 水屋	1: 知らない	73%	3%	66%	0%	14%	0%	6%	0%	83%	2%	65%	0%	26%	0%	87%	0%	87%	0%
	2: 見たことはある	26%	11%	29%	15%	59%	20%	47%	3%	13%	10%	28%	26%	20%	10%	7%	6%	11%	10%
	3: 役割が分かる	0%	86%	4%	84%	25%	79%	41%	97%	3%	88%	8%	74%	53%	88%	7%	94%	2%	90%
	m: 無記入	1%	0%	1%	1%	2%	2%	6%	0%	0%	0%	0%	0%	1%	2%	0%	0%	0%	0%
問3 薩摩義士	1: 知らない	87%	3%	76%	1%	29%	9%	53%	3%	50%	0%	80%	32%	38%	3%	60%	0%	84%	15%
	2: 聞いたことはある	10%	16%	20%	16%	52%	38%	38%	6%	30%	2%	20%	42%	17%	15%	40%	19%	14%	31%
	3: 何をしたか分かる	0%	80%	3%	83%	16%	53%	9%	91%	20%	98%	0%	26%	45%	81%	0%	81%	2%	54%
	m: 無記入	3%	1%	1%	1%	3%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
問4 洪水に際して	1: 急いで避難	17%	21%	43%	52%	56%	68%	59%	65%	32%	33%	25%	32%	49%	51%	20%	81%	51%	41%
	2: ニュースを聞く	53%	69%	52%	47%	43%	30%	35%	32%	65%	67%	70%	68%	46%	44%	53%	19%	38%	56%
	3: じっとしている	24%	10%	5%	1%	2%	2%	3%	3%	3%	0%	5%	0%	5%	4%	27%	0%	11%	3%
	m: 無記入	6%	0%	0%	0%	0%	0%	3%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
問5 水防団	1: 知らない	21%	21%	38%	9%	21%	8%	26%	15%	22%	2%	48%	8%	19%	13%	13%	0%	10%	5%
	2: 聞いたことはある	30%	40%	38%	49%	43%	45%	53%	50%	30%	27%	33%	37%	49%	32%	67%	50%	48%	41%
	3: 何をするか分かる	46%	39%	24%	43%	35%	47%	21%	35%	48%	72%	20%	53%	32%	55%	20%	50%	43%	54%
	m: 無記入	3%	0%	1%	0%	2%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	1%	0%	0%	0%	0%	0%
問6 堤防の役割	1: 通行	4%	6%	9%	2%	5%	3%	0%	3%	2%	0%	5%	0%	2%	2%	0%	0%	5%	0%
	2: 洪水を防ぐ	91%	93%	89%	97%	94%	97%	100%	97%	97%	100%	93%	95%	95%	98%	100%	100%	89%	98%
	3: 川原をつくる	1%	0%	2%	1%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	3%	0%	3%	0%	0%	0%	6%	2%
	m: 無記入	3%	1%	0%	0%	2%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	5%	1%	0%	0%	0%	0%	0%
問7 地域の協力	1: 協同して避難	41%	49%	48%	67%	38%	38%	24%	12%	23%	40%	30%	34%	61%	54%	27%	69%	41%	41%
	2: 防犯パトロール	30%	26%	8%	11%	35%	39%	21%	65%	27%	45%	18%	29%	22%	27%	7%	19%	6%	28%
	3: 掃除	26%	24%	42%	20%	24%	21%	47%	21%	25%	15%	53%	32%	17%	15%	67%	13%	52%	31%
	m: 無記入	3%	1%	1%	2%	3%	2%	9%	3%	25%	0%	0%	5%	0%	3%	0%	0%	0%	0%
問8 過去の災害(複数回答)	1: 土砂崩れ	4%	0%	0%	0%	0%	2%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	3%	2%	0%	0%	5%	0%
	2: 地震	6%	7%	22%	27%	13%	24%	26%	32%	8%	28%	30%	34%	31%	31%	0%	13%	37%	41%
	3: 洪水	46%	84%	33%	57%	46%	71%	35%	59%	2%	23%	8%	13%	11%	13%	13%	56%	13%	11%
	4: 火事	0%	0%	3%	1%	0%	3%	18%	0%	7%	38%	5%	3%	5%	6%	0%	6%	10%	10%
	5: 知らない	41%	11%	50%	26%	41%	14%	26%	21%	80%	12%	58%	58%	56%	56%	87%	25%	43%	48%
	m: 無記入	3%	0%	1%	1%	2%	0%	0%	3%	5%	0%	3%	0%	1%	3%	0%	0%	2%	2%
問10 自慢できる場所	1: ある	10%	16%	58%	73%	3%	39%	6%	53%	52%	82%	53%	61%	43%	30%	27%	63%	89%	82%
	2: ない	44%	31%	6%	11%	17%	26%	85%	18%	0%	3%	20%	26%	18%	30%	40%	19%	0%	0%
	3: 分からない	44%	53%	36%	16%	79%	35%	6%	26%	48%	15%	28%	13%	39%	40%	33%	19%	11%	18%
	m: 無記入	1%	0%	1%	1%	0%	0%	3%	3%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
問12 地域が好き	1: 好き	60%	80%	75%	80%	48%	73%	76%	74%	63%	85%	70%	84%	73%	76%	67%	81%	90%	90%
	2: 嫌い	9%	6%	8%	5%	13%	9%	21%	12%	2%	2%	3%	3%	10%	7%	0%	0%	2%	0%
	3: 分からない	29%	13%	12%	14%	38%	17%	0%	15%	33%	13%	18%	11%	16%	17%	27%	19%	6%	10%
	m: 無記入	3%	1%	4%	2%	2%	2%	3%	0%	2%	0%	10%	3%	1%	0%	7%	0%	2%	0%

(3) アンケートの基礎集計結果

9校の小学校で、事前／事後の計18回行った地域学習に関するアンケートの基礎集計結果を表-3に示した。問9、問10～問12の記述回答欄は割愛している。

4. 地域学習による態度変容に関する分析

(1) アンケート結果の前後比較と地域性に関する分析

地域学習を受ける前（事前アンケート）と受講後（事後アンケート）を比較することで、地域学習効果などについて考察する。

A. 輪中地域について：

問1：輪中地域については、岐阜大学付属小学校以外は、ほぼ「知らない」（平均 81%）と回答し、受講後は「役割が分かる」（平均 5% → 56%）まで理解が深められている。

問2：水屋については、中下流域では「見たことはある」と事前に回答する児童もあったが、多くの児童は「知らない」（平均 56%）と回答しており、受講後は「役割が分かる」（平均 16 → 87%）まで理解が深められている。水屋に関しては、輪中地域まで見学に行くプログラムが組まれている小学校が多く、理解の深まりとも関係していると推測される。

問3：薩摩義士については、学校により取り組みの違いがみられるが、多くの小学校で「何をした人が分かる」（平均 10 → 72%）まで知識が向上している。岐阜市立可能小学校では、受講後実に 98%の児童が薩摩義士の果たした事業を知っており、これは地域学習プログラムとの関連が深い。

B. 河川と洪水について：

問4：洪水に際しては、多くの地域で「急いで避難する」と「テレビ、ラジオなどでニュースを聞く」という行動が選択され、受講後は「急いで避難する」が上昇す

る事例（相生小：20% → 81%）以外は、さほど変化は見られなかった。地域学習以外にも別途、防災教育などが必要であると考えられる。

問5：水防団の存在については、事前に「聞いたことはある」（平均 43%）、「何をする人が分かる」（平均 32%）と比較的よく認知されており、受講後もあまり変化は見られない。岐阜県では、水防団に従事する親や親戚などを持つ児童も多く、このような結果が得られた。

### C. 身近な地域の理解について：

問7：地域の人々が協力することの中で一番重要と児童たちが考えていることは、地域によって異なるが、受講後は「掃除」が減少（平均 39 → 21%）している。市街地に立地する小学校の児童が「防犯パトロール」を重視する傾向にある。

問8：過去に地域が受けた災害についても、地域によって差が見られるが、「知らない」と回答する児童は減少（平均 54 → 30%）している。「洪水」については、増加（平均 23 → 43%）している。「地震」については比較的多くの（平均：事前 19%、事後 26%）児童が回答しているのは、東海や東南海地震などへの関心の高さを示している。

問9：岐阜にある大きな川を回答させる設問については、多くの児童は「木曽川」「長良川」「揖斐川」を挙げていたが、地域にある大きな川の名前を書く者もいた。

### D. 地域への愛着について：

問10：自分たちが住む地域に自慢できる場所がありますか、という設問に対しては、「ない」「分からない」が減り、「ある」と回答する児童が増加（平均 38 → 55%）した。この場所については、一般の観光地ではなく、地域学習で知り得た場所を記載する児童が多かった。

問12：自分の地域を好きか、という設問に関しては「はい」が増加（平均69 → 80%）しており、多くの地域では、「分からない」は減少している。

地域学習受講後、各設問とも総じて正の方向に児童たちの態度変容が認められ、地域に対する正しい理解を促進した点において、地域学習効果が認められた。

## (2) コミュニティの公的意識に関する分析

地域学習を通して、児童たちは「地域社会の理解」と「地域性の理解」を行い、これが「地域の一員としての自覚」と「地域に対する誇りと愛情」という態度・行動の変容を促すとの仮説に基づき、検証する。

アンケート結果の分析から「地域性」に関しては、

① 防災機能的理解：輪中の危険性や水屋の機能などを知り、堤防の役割や過去の災害に対する知識などが深まり、社会システムの一部を「知る」ことができた。

② 地域固有性理解：他の地域との比較や自地域の土木史を通じて、地域に自慢できる場所を見つけ、地域が好

きになり、地域アイデンティティの獲得が進んだ。

ことが検証された。また「地域社会」に関しては、

③ コミュニティの必要性の理解：参加型まちづくり、公共政策に関する合意形成などについて、地域の協力形態や水防団の有用性など、社会構造の理解が促進された。などの効果が示された。

## 5. おわりに

本研究の成果として、以下の点が挙げられる。

1) 複雑な地域の様相を一つの対象、「景」として認識することは、児童においても地域の風土の理解を促進させ、統合的に地域社会について考える力を涵養するものである。地域特性を実際に、しっかり見て理解することは、地域への愛着を育むものであることが理解された。

2) 同時代同じ地域に住まうコミュニティの構成員が、同じ風景を「観」て、地域に対して実感する地域特性は、社会システムの効率的な運用、インフラストラクチャーに対する適切な理解を得ることに有用である。土木史を通じて自地域の先人たちの取り組みを学び、地域システムを正しく理解することが、コミュニティの一員であることの自覚に繋がるということが理解された。

以上より、公民的資質に関する態度・行動の涵養にとって、健全な地域景観、地域コミュニティが与える影響は大きいと考えられる。特に、学習対象となった「輪中地域」では、防災と景観が一つとなり、文化的景観としての価値付けも高い、と言える。

### 謝辞：

本研究では、岐阜県教育委員会の皆様にたいへんお世話になった。また、各小学校の中学年社会科担当教諭他先生方及び4年生の児童のみなさんには、各調査にご協力頂いた。記して感謝の意を表します。

### 参考文献・補注：

- 1) 文部科学省：小学校学習指導要領解説 社会編，1999. 5.
- 2) 山田孝太郎・田中尚人・秋山孝正：地域学習教材にみる土木事業の地域特性に関する考察，土木学会年次学術講演会講演概要集第4部，第59号，4-194，2004. 9.
- 3) 山田孝太郎・田中尚人・秋山孝正：地域学習の土木工学面での教育的意義に関する検討，土木計画学研究・講演集，2006. 6.
- 4) 日本建築学会編：景観法と景観まちづくり，学芸出版社，2005. 5. などが詳しい
- 5) 別途，地域学習に関するカリキュラム，教材ついてヒアリング調査を行っている。上記参考文献 3) 参照